

認知症支援

認知症になっても安心して暮らせる町をめざして

認知症は、高齢になるほど発症する可能性が高まります。認知症の診断を受けなくても、年相応のもの忘れは誰にでも見られるものです。

もの忘れや認知症があっても、自分らしく暮らし続けられるまち出雲崎を目指します。
(出雲崎町認知症ケアパス)

●もの忘れと認知症の違い

じっくり思い返したり、ヒントをもらおうと思いだせるもの忘れは、加齢によるもの忘れです。認知症のもの忘れは、体験自体を忘れてしまうのが特徴です。

加齢によるもの忘れ



- もの忘れを自覚できる
- 出来事の記憶の一部が欠ける
- ヒントを出すと思いだせる
- 日付や曜日を間違えることがある
- 顔はわかるが、名前が思い出せない

認知症によるもの忘れ



- 忘れていたことを自覚できない
- 出来事の記憶が丸ごと消える
- ヒントを出しても思い出せない
- 日付や曜日、季節がわからなくなる
- 長い付き合いの人がわからなくなる

65歳以下で発症する 若年性認知症

仕事や家事のミスが重なるようになったら要注意!

- 書類の整理が難しくなった。
- 家事に時間がかかる。
- 打ち合わせの約束を忘れてしまう。

うつ病などの精神疾患と診断されていることもあります。若年性認知症は進行が速いため、早期発見が何よりも大切です。